

はじめに

本市では、平成29年3月に第2期高萩市地域福祉計画、第4次高萩市地域福祉活動計画を策定し、「みんなで支え合う豊かな福祉のまちづくり」を基本理念として、地域福祉を総合的かつ計画的に進めてまいりました。

しかしながら、少子高齢化による人口減少や核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化など、地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴って高齢者福祉、障がい者福祉、子育て支援、生活困窮者対策等の様々な分野におけるニーズも多様化・複雑化しております。

また、新型コロナウイルス感染症は、人々の日常生活や地域活動、経済社会活動に大きな影響を与え、イベントの中止や縮小など、人と人をつなげる交流活動にも停滞を生じてさせています。

このような状況を踏まえ、本市は地域福祉計画及び地域福祉活動計画を見直し、「みんなで支え合う豊かな福祉のまちづくり～地域共生社会の実現～」を基本理念とした本計画を策定いたしました。新しい計画に基づき、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らしていけるよう、地域共生社会の実現に向けた体制整備に引き続き努めてまいりますので、市民の皆様にはより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見・ご提言をいただきました策定委員の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力いただきました皆様に心から感謝を申し上げます。

令和4年3月

高萩市長

大部 勝規



第3期地域福祉計画・第5次高萩市地域福祉活動計画策定にあたって

年号が令和に変わり4年目となりました。この間、地域における社会問題は複雑化や深刻さを増しています。これまでの高齢者福祉や障害者福祉などといった対象者別の制度を適用するだけでは解決が難しくなっています。地域での孤立化やさまざまな依存症、また児童虐待や子どもの貧困、ヤングケアラー問題など、制度と制度のはざまにある問題への支援が一層求められています。そのどれをとっても一つひとつが深刻な問題ですが、特に児童に関する社会問題の解決は急を要し、子ども家庭庁の創設についての熱い議論が進んでいます。



また、忘れてならないのが令和2年から世界的に感染拡大してきた新型コロナウイルスの存在です。このウイルスの非常に強い感染力は、人と人との対面的な接触に打撃を与え、新しい生活様式への転換を余儀なくしました。

このような社会情勢の中、社会問題の解決には一家庭の力や制度の適用に頼るだけでは難しく、地域での助け合いの重要性が再認識されてきています。いまや、地域コミュニティ力を高めることが、地域にとって非常に重要な課題です。

しかし地域における人と人とのつながり方は、家族形態の変化やプライバシー意識の高まりもあり、昔のような濃密な関係は敬遠されがちです。だからといって、隣人の顔も分からないというような、疎遠な関係が求められているわけではありません。プライバシーが尊重されながらも、つながりを感じることのできる地域のあり方が求められているのだと思います。地域福祉計画・地域福祉活動計画は、まさに現代的な地域コミュニティ力を高めることを目指した計画です。

この計画では、「みんなで支え合う豊かな福祉のまちづくり～地域共生社会の実現～」を基本理念にしています。しかし、これは行政や社会福祉協議会の力だけでは実現が難しく、市民の皆さま方の積極的な参加が欠かせません。市民の皆さまと行政等とが一丸となった取り組みが、地域コミュニティ力を高めていくことになろうと思います。市民の皆さまと行政等がともに叡智と経験を出し合い、高萩市独自のつながりや輪を形作っていくことができることを大いに期待しております。

令和4年3月

高萩市地域福祉計画・高萩市地域福祉活動計画策定委員会委員長

茨城キリスト教大学生生活科学部教授 **富 樫 ひとみ**